学校通信R8(2026)10月号 いのち・ルール・マナーを守って 安全・安心

# うねびみなみ

橿原市立畝傍南小学校 ☎(27)1507 ks-unebiminami-e-t@e-net.nara.jp

**しずかなしずかな　里の秋　お背戸に木の実の　落ちる夜は**
**ああ　母さんと　ただ二人　栗の実煮てます　囲炉裏端**

**「里の秋」斎藤信夫作詞**



各地に被害をもたらした長雨が落ち着き、ようやく心地よい秋の気配が感じられるようになってまいりました。この度の地震や豪雨により被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早く穏やかで安心できる日々が戻りますよう、深くお祈り申し上げます。

冒頭にご紹介した「里の秋」は、戦後の混乱期に人々の傷ついた心をやさしく癒やした名曲です。もともとは時代背景を映した戦意高揚の詩でしたが、作曲家の海沼實氏の願いにより温もりある歌詞へと書き改められ、今日まで歌い継がれる曲となったそうです。

昨年度、本校の出身者が内閣総理大臣に就任したことをきっかけに、多くの卒業生の方々が懐かしい母校へと想いを寄せてくださいました。その中で、1946（昭和21）年にご卒業された当時94歳の大先輩（神戸市在住）より、心温まるお手紙をいただきました。

「戦争に明け、終戦で暮れた小学校時代でした。米軍機が近づくと、最高学年だった私が『空襲警報！！』と叫んで声を掛け合い、下級生たちが無事に帰宅したのを見届けてから家路に就いたことを覚えております」――当時の切実な思い出が、丁寧な言葉で綴られていました。

今年も6年生は平和学習に深く取り組み、12月には広島への修学旅行を予定しております。日頃から「相手の気持ちを思いやろう」と伝え合いながら学校生活を送っていますが、戦後81年を迎える今なお、世界各地で悲しい争いが絶えず、心ない言葉が行き交う現状があります。「なぜ勉強するの？」と子どもたちに問われた

とき、私は「誰もが安心して笑顔で暮らせる未来を、自分たちの手で創っていくためだよ」と答えるようにしています。

「かわいい後輩たちが、希望に胸を膨らませて励んでいることでしょうね」という温かな励ましで手紙は結ばれていました。子どもたちに決して辛い思いをさせることなく、平和で豊かな未来へと導いていけるよう、教職員一同、日々の教育活動に誠心誠意取り組んでまいります。

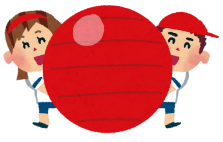



## シン・図書室（仮）の活用を始めています

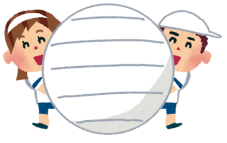



来客用玄関前にある視聴覚準備室を整え、子どもたちが「ほっと一息つける場所」を作り始めました。ゆったりとくつろげるクッションや柔らかいシートを用意し、心安らぐ空間を目指しています。

15分休み（サンタイム）や昼休みには、自由に本を手に取り、座ったり寝そべったりしながら読書を楽しんでもらいたいと考えております。まだ使い方のルールが定着しておらず、元気に動き回ってしまう場面も見られますが、見守りの行き届きやすい環境を生かし、より良い空間に育ててまいります。本は子どもたちがワクワクするような新古書を中心に揃えており、今後も少しずつ冊数を増やしていく予定です。



## 運動会をめざして



10月24日（土）の運動会に向けて、子どもたちは日々の練習に励んでいます。本校の運動会は、日頃の成果を披露する「体育の大授業参観」として実施いたします。

得意な種目や目標は一人ひとり異なりますが、それぞれが自分の目標に向かって無理なく取り組めるようサポートしてまいります。ご家庭でもあたたかく見守っていただけますと幸いです。ご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

なお、体育館の空調設備設置工事のため足場を組んでおり、トイレ利用等ご不便をおかけします。ご協力いただきますよう重ねてお願いいたします。